

## 第7回商工センター地区活性化検討会 議事要旨

### 1 検討会名称

第7回商工センター地区活性化検討会

### 2 開催日時

平成29年8月25日（金）午前9時30分～午前11時30分

### 3 開催場所

広島サンプラザ2階 太陽の間

（広島市西区商工センター三丁目1番1号）

### 4 出席者

構成員16人中16人出席（代理を含む。）

### 5 議題

- (1) MICE 施設について
- (2) 地区内企業のあり方について
- (3) その他

### 6 会議資料名

- 第7回商工センター地区活性化検討会 次第
- 第7回商工センター地区活性化検討会配席図
- 商工センター地区活性化検討会構成員名簿
- 資料
  - 資料1 広島市のMICEの推進について
  - 資料2 主なMICE施設の新設・増床計画
  - 資料3 主な既存MICE施設

### 7 出席者の発言要旨

（戸田座長）

本日の議題は3件である。議題1は「MICE施設について」である。MICE施設に求められる機能・役割についての意見交換をしていただきたいと思う。議題2は「地区内企業のあり方について」である。MICE施設の整備も踏まえた地区内企業と地区全体のあり方などについて意見交換をしていただきたいと思う。議題3は「その他」として、本日議論する内容等含めて自由に意見交換できる時間を設けたいと思う。

それでは、まず議題1の「MICE施設について」議論する。前回の検討会で、将来のまちづくりのために望まれる施設や機能について「商工センター地区まちづくり提案」の中で、地区の核となる施設としてMICE施設を商工センター地区に建設することの提案をいただいた。これを受けて、本日は、まず市から最近のMICE施設の状況やトレンドなどについて説明をお願いします。

（MICE戦略担当課長）

[資料1「広島市のMICEの推進について」、資料2「主なMICE施設の新設・増床計画」及び資料3「主な既存MICE施設」により説明]

（戸田座長）

市の説明に対して、商工センター地区で、どのような機能・役割を備えたMICE施設が求められるかについて意見交換したいと思う。それでは、御質問や御意見をいただきたい。

(伊藤会長)

我々が MICE 施設の建設を核としたまちづくりの提案をしている商工センター地区は、広島駅から JR で 15 分で着くという極めて他の候補地より立地的な優位があり、他都市の MICE 施設の立地と比べても遜色はないと思った。提案書を作って良かった。

(中村常任理事)

市の資料に記載されている MICE 施設の中で、西日本地区、京都より西の施設の年間利用頻度を把握しているか。

(MICE 戦略担当課長)

年間の現在の利用頻度については情報を持っていないが、一つ言えることは、福岡市の場合、マリンメッセ福岡は稼働率が高過ぎる状況にあり、この状況を打開するために、元々あるマリンメッセ福岡の駐車場用地を潰して第二の展示場を造ると聞いており、かなり稼働率は高いという状況である。

(戸田座長)

九州辺りの件数が多い。アジア大陸が近いので、その影響もあるのかもしれない。

(樋口常任理事)

MICE 構想自体は、他都市に比べて、広島市は随分遅れている。県も市も産業構造がさらに変革していく中で、県の収入について、そこに住居している我々県民を考えると、先立つ経済としてのいかなる柱を造っていくかということが重要な課題だと思っている。MICE 構想について、一つの経済の大きな発展、波及効果として、市はどれくらい検討しているのか。大きな観光の話にもなる。そういった長期的な視野に基づいて MICE 構想があるなら十分検討の余地があると思う。

(経済観光局長)

MICE の誘致については、資料のとおり、一般観光の支出と比べて国際会議は約 2 倍の消費額があるということ、また、国際会議の経済波及効果額としては一人当たり約 58,000 円と更に約 1.59 倍という数値になっており、一般観光の場合と比べて 3 倍強の経済波及効果があるため、非常に大きな効果があると考えている。また、単純な経済波及効果だけでなく社会的な波及効果もあり、「ビジネス機会の創出、国際化」などが考えられ、この点について、特に商工センター地区は、非常に色々な産業、企業が集積しているため、そういった土壌が十分にある地区だと考えており、社会的波及効果の大きい地区ではないかと思っている。

広島市は、現在、MICE 施設については、宇品・出島地区にメセコン用地を持っている。県の港湾計画の改定時期に差し掛かっており、宇品・出島地区のメセコン用地をどうするか、今後、議論に上がってくると思う。宇品・出島地区の物流関連事業者からは、市のメセコン用地を MICE 施設よりも、むしろ自らの物流施設として拡充してほしいとの要望があると聞いている。

経済波及効果が非常に大きく、また社会的波及効果の中でも特に「ビジネス機会の創出、国際化」、「産業の振興」に大きな役割を果たすであろう MICE 施設について、この商工センター地区は、非常に、土壌的に適した場所だと思っている。

(戸田座長)

私からのコメントとしては、MICE 施設の開設の時期は、1985 年のプラザ合意が大きな 1 つのターニングポイントとなっており、それ以降、本格的なグローバル化、国際化が進み、1990 年辺りに設置された MICE 施設が多い。実は、1990 年は地域経済において、日本の製造業の製造品出荷額の伸びが折れ曲がった非常に

ショッキングな年であった。グローバル化が進み、海外への進出が多くなった。より高付加価値的なものを作っていかなければならなくなり、製造業を中心に、高付加価値的なものを作っていくという競争世界に入った。MICE 施設は、その時代の象徴的な存在だったと個人的に認識している。1990 年に MICE 施設について話が出てから大分経つ。状況は、大きく刻々と変わってきているという認識である。

(塚井准教授)

市の資料を見ると、西日本で「商工センター地区まちづくり提案」に記載されているほどの規模の MICE 施設はないため、勝機があり、可能性もある。

大きな規模の施設を支える地元の厚みがあるかどうか。先ほど、稼働率の話があったと思うが、小規模であれば、それなりにニーズはある。普通に運営していても何とかかなと思う。老朽化に対する代替施設の問題も考えておく必要がある。グローバル化に伴って、地元の企業も製品を海外に直売する機会が確実に増えているところであり、地元の企業が専ら国際的に活動するために MICE 施設は必要である。大学側としても、小規模な会議が頻発していて、どこで開催するか検討する際に、大学の考える会議条件を満たす会場がないと、結局大学で開催することになってしまう。本音を言うと、我々の小規模な会議も、仮に商工センター地区に MICE 施設が整備された場合は、そこで会議ができるメリットがある。

MICE 施設の規模について、一人歩きしてはいけないと思うが、約 1 万㎡で考えているということは、他都市と比べても、既存の施設であれば、関東を除いて大阪、福岡、北九州辺りと競っていく形になると思う。ただ、この MICE 施設をどう使うか。2,000 ㎡、3,000 ㎡の規模のものとは変わってくると思う。

規模と施設の関係が、設計上中々難しいところで、当然、施設内のコンベンションについて、どういう性格のものを造るかということも全体の大きさにより決まり、それに伴って、必要な附属施設も全く変わってくる。今年の夏前に、パシフィコ横浜の 2 万㎡の展示ホールに行ってきた。1 階の展示ホール全てが使用され、3 日間で 8 万人が集まる会を見てきた。端的に言うと、みなとみらい線が完全にパンクしている状態だった。それに加えて増床という計画が資料に記載されているが、実際に現地へ行った者からすると、どのようにして交通問題を解決するのか疑問に思う。

幕張メッセは、昔から大渋滞することで有名な場所で、商工センター地区に MICE 施設を造った後に、JR が本当にそれに対応できるのか。1 万㎡の規模でも大変怪しいかもしれない。会議のタイミングにもよるが、開場前のタイミングが最も大変で、以前、会議の早い時間に話をしてほしいということで幕張メッセに呼ばれて行ったが、周囲の方の大半が会場に向かっているように見えた。

交通の問題の次は食事の問題である。食事は一体どのようにして確保するのか。私が会議に参加した際は、弁当が用意されていたが、食事をどれくらい会場の周囲でカバーできるか。非常に大きな規模の会議を開催する際には、特に考えておく必要がある。また、ホテルについて、市内のホテルを全て活用すれば問題ないと思うが、同時に並行して市内で別の会議が開催されている場合もあるため、キャパシティの問題は全体で良く考えておく必要がある。計算上対応できるはずでも、実際予約しようとする、ホテルが取れないということもある。さらに、空港に関してはどうするのか。位置関係では、広島空港と岩国空港のどちらも変わらないと思う。どれくらい使用されるかはわからないが、便数をうまくセットしたり、またチャーターの調整ができるなど、うまく連携を考えることができれば、岩国空港を利用する方が商工センター地区のロケーションには良いかもしれない。そうすると、益々 JR にかかる負担は大きくなる。JR の路線容量が足らなかつたらどうするのか。バスの拠点、アルパークに少しあるが、本当に使われるのか。あるいは、敷地内にそういうものをどうしないといけないのか。かなり細かい話にはなるが、頭に置いておいてほしい。それと同時にこれだけ大きな施設をフルで 365 日使うことを期待するのは難しいので、小さく分けてどのように使っていくのかも考える必要がある。

これまで私自身が会議に参加したり運営してきた経験からの話だが、パシフィコ横浜での会議に参加した際、エントランス前の受付で人が詰まり大変なことになっていた。レジストレーションでのお金のやりとり

が、現在は、事前払い等でできるだけ混雑が発生しないことが多くなってきていると思うが、それでも名簿を突き合わせることになるとう受付は大変な状態になる。

MICE 施設で、大きな規模の会議を入れてうまく回すという話と、卸センターからの最初の提案である中小企業会館で地元の方のニーズによって運営するような会議にも使用したいというスタート地点の考えは、少し異なっているとは言わないが、ニーズによって規模感が変わるし、規模感が変われば附帯施設も格段に変わることを意識しておく必要がある。確実に商工センター地区や広島市全体の経済観光活動を考えていくと、グローバルな商売の機会が欲しいのは間違いないと思うし、ここから先は需要をどう見積もっていくかというのが本音ベースの話で、どれくらいの規模のものが需要としてあるのかということ、市に情報を収集してもらい、サミットの協力を得ながら、経済活動も見据えながら、今から考えていくというような具体的な作業に入っていくと思う。

実は、小規模な会議も意外と開催されている。この8月に、JRが経営している博多の駅ビルの10階にあるMICE施設だと思うが、本当に小さい部屋が6つくらいしかない会議施設に行った。場所は最高で、電車で行って、そのまま駅から出る必要がないような立地でホテルに直結していた。ただ、規模は小さい。受付の方に稼働率を聞いてみたところ、予約が取れない状況という回答だった。やはり、ロケーションの良さは重要で、このように小規模な施設でも稼働率はあるし、中国などのアジアの方が多いのは、九州の特性かもしれないが、小規模な会議をうまくはめ込んでいけば、勝機になると思う。商工センター地区にMICE施設が建設された際に、そのような運営ができるかは分からないが、小規模な会議で稼働率を稼いでいくことは有効だ。また、フリーのインターネットは外国人に必須である。私が以前、先ほどの博多駅のホテルの受付脇で仕事をしていると、引切り無しに受付に来た外国の学生等が、フリーのインターネットについて使用できるか聞いていた。施設に附帯している設備、特にこれから増床させる施設にインターネットは当然必要になる。

最後になるが、イスラム教の方への対応として、沐浴のスペースを用意して会議をするという話を聞いたことがある。宗教対応でいうとハラール系の人のこともあるので、国際会議は、1万㎡も使うとなると、そういう方々を相手にビジネスをすることになるとかなり細かい話になるが、そこまで考えておく必要があるかもしれない。

(戸田座長)

色々な角度から慎重な検討が必要である。基本的な方向性はもちろん、その中での基本計画の検討、さらにコンセプト、どのような施設が望まれるか、特に地元のニーズはどこにあるのかが大切である。それを踏まえた上で実施計画、条件整理、規模等の検討に入ると思う。

地元のニーズについて、塚井先生から話があった。それを踏まえ、議題2で、「地区内企業のあり方について」議論してもらおう。

これについては、MICE施設の整備も踏まえ、地区内企業と地区全体のあり方、20年、30年後の地区内企業のあり方の意見交換をしていただく。この視点は、前回の検討会でも地区のまちづくり、施設づくりはもちろんだが、地区全体の機能配置や業務団地の張り替えなど、大きな視野で見ることの必要性が強調された。

それでは今回の意見交換に当たっては、MICE施設が将来商工センター地区に建設されることとなったと仮定して、2点について議論していただく。1点目として、「地区内企業はMICE施設をどのように活用し、有機的に連携できるか。」について御意見をいただく。要は地元のニーズとの関係である。2点目として、「MICE施設が建てられる一方で、団地内企業はどのように業態や立地環境の変化に対応していくべきか。」について御意見をいただく。

それではまず1点目の「団地内企業はMICE施設をどのように活用し、有機的に連携できるか。」について席の順番に御意見を願います。

(広島市西部トラックターミナル連絡協議会 藤本氏)

MICE 施設に、どの程度の人間が、どのような形で集まるのかという具体的な計画そのものがない段階で、私ども運輸関連がどのような連携ができるのかについては、各論では話すことが難しい。MICE 施設は、非常に経済的波及効果が高く、多くの方が集まられるということで、当然大きな運輸業務が発生するため大きな期待をしており、抽象的になるが、社会的波及効果という中で、色々な展示による、ビジネス機会の創出も期待できる。具体的に細かい連携については考えていない。

(樋口常任理事)

毎年 10 月 9 日は「トラックの日」ということで、年に 1 度、一般の方に我々の仕事を知っていただくために、子供達や家族達を含めて良き交流を深めてもらうためのイベントを行っている。運営は、広島県トラック協会の青年部を中心に行っているが、我々輸送ターミナルもブースを設けて活動している。

仮に新しい MICE 施設を商工センター地区に造るにしても、このようなイベントができるスペース、高さがあれば活用できると思う。我々の業務がどれほど国民生活に密着して非常に大事なインフラであるかを皆さんに知っていただくための活用の場所になると思う。

やはり、塚井先生が言っていたが、色々な問題点や課題もたくさんあり、大きな視野で考える必要があると思う。ただ、広島も変わらないといけない。広島には大企業があるが、今後の展開を考えた時に、市も県も今後の経済について何か新しい目玉を含めて考えていかなければならないと思う。多方面において、MICE 施設の経済波及効果は実に絶大であるということは海外でも証明されている。ただ、それが広島に当てはまるか、どう活用できるか、運営の主体を含めて考えていかなければならない。一般的には、整備会社、運営会社、ホテルの三つの運営母体が必要だと考える。それなりの選定も含めて色々作業や予算のこともあると思うが、マクロな視点で考えれば、この検討会において、やはり新しいことにチャレンジする方向で真面目に積極的に考えていくことが必要だと考える。

(喜瀬常任理事)

塚井先生から現状を踏まえて色々な話があった。これは全てこれから商工センター地区に MICE 施設が建設された場合を考えていく上での一番のメリットになる。予想において、色々な問題が出てくることを逆に全て取り入れて進めるとよい。規模の問題よりも利便性が重要。インフラは簡単ではないかもしれないが、MICE そのものについては、周囲に飲食がないとか、景色の問題、小規模な会議をどう扱うか等、規模が 1 万㎡だったとしても、それに対応する柔軟な構成にすれば解決できる気がするし、我々の印刷業界を MICE 施設に連れて来ようとしたときに、こういう便利なことがあり、こういう良いことがあるという何かの目玉を持っていないと、これだけ全国に多くの MICE 施設がある中で、それを乗り越えて人を引っ張って来るのは難しい。例えば、受付は何も書かなくても事前に個人情報登録していれば通過できたり、希望があればスマホでの登録方法を案内するなど、受付や運営している内容について、できるだけその時点の最先端の方法を取り入れると良いと思う。

MICE 施設について、これから経済効果に合う規模を想定する必要がある。そうすれば、人で困る問題はなくなると思う。

我々は印刷業界であるが、将来、紙に印刷することは、今までのように残るとは決して思っていない。例えば、受付のあり方、運営そのものも含めて、発信する、編集する、編集して発信するところまで含めて対応できる業態に変わらないと生きていけないと思っている。そういう意味では、MICE 施設が商工センター地区に建設された場合、展示場をどう有効に活かして、来られた方の利便性を図っていくための情報をどう加工して、受け付けた個人情報をどう活用していくかを含めて変わっていく必要がある。例えば、会議が終わって 1 時間以内には会議の発言内容を、皆さんに届けることができる等である。そういうことができれば、来られる方が便利だと思うし、プリントしなくても情報をデータのまま保管して、そのまま自分のパソコン

に返信するという形も十分可能になる。今すぐクリアする必要はないが、そういう方向に持っていけば、我々の業界は少なからず生き残れると思う。

小規模な展示ができる部屋を設けることによって、卸の取扱商品などの新しい情報を発信できるとともに、卸とメーカー、ひいては、卸が製造、小売までもっていけるような設備として考えられたらいいと思う。

利便性における目玉は、すぐ他都市に追いつかれるため、その次はやはり、新しくできる市場が、どこにも負けない目玉になるような市場になってもらえたら、飲食も含めてはるかに素晴らしい人の誘致ができると思う。

(岡本常任理事)

意見と疑問だが、広島という規模の町でありながら、市の資料によると政令指定都市の中で国際会議の件数が10位ということで、広島市は国際会議が少ない。周辺の都市と比べて、広島地区の設備が貧弱であるという状況が長年ある。それと同時に、私の業界はこれまで色々なイベントをしてきたが、広島地区は、非常に集客が困難という状況にあったが、それがなぜかわからなかった。岡山と比べて、岡山の方が集客に強い原因がわからなかった。市の資料を見ると、広島市の設備の貧弱さと件数の少なさが、もしかしたら、メーカーが行うイベントの困難さと何か関係があったのかもしれない。広島の持っている独特の弱点と疑問がさらに見えてきて、深まった気がした。

団地内の企業として、我々の団地は大きなことは考えられない。規模的には小さいものもいいが、まち全体を見ると、小さなものがたくさんあっても、集客力がなく、広島独特の問題点があるように思える。意見や希望になるが、やはり、広島の今後の集客力と情報発信機能、我々が気付いていない問題がたくさんあるということを感じた。これからもっと深く考えていく必要があると感じた。

(中村常任理事)

MICE 施設に関して、是非、宇品・出島地区から商工センター地区に広島市の基本的なスタンスを変えて、商工センター地区に MICE 施設を造っていただきたい。

MICE 施設が建設されたら、有機的な連携ができるかということだが、現時点では意見を述べるのが難しい。まだ具体的な画等が出ていないし、塚井先生が言われたように、これから協議していく中で解決していかなければならない。また問題は解決できていると思っている。

(豊後副会長)

団地内企業は MICE 施設をどのように活用するかという話や団地内企業のあり方について、私は市場の中の青果の業界であり、例えば、会議をどこで開催するか、北海道、九州、沖縄までの各県の会議が頻繁に行われているが、特に中四国のエリアでの会議をどこでするかということが頻繁に問題になる。中四国の中での利便性を考えると岡山になる。どうしても中四国で開催しようとする、岡山は、四国からも来易いため、1番人が集まりやすく、希望が多い。ただ、私どもの取扱関係で広島で会議を開催することになった際に、以前、サンプラザで開催しようと計画したが、県外から来られる方からは、「広島駅の近くで開催してほしい」と言われた。サンプラザだと「広島駅から JR で乗り換えなければいけない」という話が結構出るのが実態である。

その中で、会議を岡山でもなく、広島の中でも商工センター地区で開催するためには、何か目玉になるものがないといけない。先ほどの市の資料により、各都市の状況を聞くと、商工センター地区は距離的には意外に近いと思ったが、過去の経験から言うと、広島駅付近で開催してほしいという声が現実であり、利便性で言うと、やはり商工センター地区は広島駅から少し距離がある。

それではどうするかという話になるが、先ほど会議について、塚井先生から規模や使用頻度の話も出て、今から考えていく必要があると思うが、私の業界からすると小規模な会議が多い。全国的な大きな会議は年

に数回しかない。今後、皆さんの話を聞きながら頭の切り替えをしていきたいと思う。

(中村副会長)

先般、サミットは商工センター地区に MICE 施設を造りたいと提案した。商工センター地区で MICE 施設を造ることによって道路を含めた交通インフラ、交流人口が増えていき、団地の企業そのものも、いずれ恩恵を受けることのできる施設になると思う。

1 番大事なのが、商工センター地区の我々の考えもさることながら、やはり広島市が中枢性をもっと高めることができるということが、我々にとっても必要なことである。MICE 施設が商工センター地区に建設された場合、広島市の中四国あるいは日本における中枢性をもっと高まり、私の仕事は食品卸売業ではあるが、卸売業のみならず、色々な業態が直接的に、または間接的に必ず恩恵を受けることのできる要素になると思っている。

いずれにせよ、交流人口を増やすという思いが必要だと思う。今後、会議場と展示場の適正規模は自ずと出てくるが、展示場を大きくし過ぎるのは問題がある。しかし、会議場については、過去開かれた会議の話を知ると、医学会の会合が多かったため、医学会の規模が国内か海外かは分からないが、いずれにしても、医学会の要望が多いということは、世界的な規模で開かれる可能性が大いにあると思う。現在、私は広島駅を良く利用するが、毎月のように外国人客が増えている実感を受ける。米国のオバマ前大統領が広島に来て以来、顕著になった。

最近、私が役員を務めている商工会議所で、日本の中で世界に通用する名前が知れている都市は（外国人に有名な都道府県は）、東京、京都、その次に広島とよく話題になる。大阪ではない。医学会にしろ、経済界にしろ、政治の会議にしろ、「広島で会議を開きたい」という要望は、これから必ず増えてくると思う。商工センター地区に MICE 施設があれば、利用してもらえることになる。したがって、広島にはコンベンションビューローがあり、色々な会議の主催者からアンケートも取っていると思うが、色々な業界での主催者の意向も含めて、可能性を大いに調べてもらって、現実には、商工センター地区に MICE 施設を建設することになったら、まず可能性のある規模を把握した上で、考えていくべきである。

いずれせよ MICE 施設が、広島市をより中枢性の高まった都市にするための起爆剤に是非なってほしい。中途半端なものはやめてもらいたい。

(伊藤会長)

私の組合の中でも、色々な展示会へ出展している企業がある。例えば、1 社で展示会をしても誰も来てくれないが、全国規模というか、業種別に多くの企業が集まる展示会に出展すると、大企業のバイヤーが来てくれるので商売になる。それが、実は今まで、広島では開催できない状況であったということが、この提案の大きな要因であった。私の組合としては商工センター地区に MICE 施設が建設され、全国規模のイベントが開けるような環境ができれば非常に助かるというのが本音である。これが、「団地内企業は MICE 施設をどのように活用し、有機的に連携できるか。」についての回答である。

実は、樋口さん、藤本さん、私、中村成朗さんの地域に当てはまることだが、物流と商流は、ある意味相容れないところがあって、人が多く来ると、交通の渋滞など、色々な問題が起きてくるため、この施設を造ることによってのマイナス面が出てくるのではないかという心配はしていた。ただ、この提案の肝は、実は、人は 2 階を歩いて、下を車両が通るという提案にしている。物流と商流を両方満たせる環境づくりをこの提案の中でしていることが、もう一つの大きな要素であることを再度確認してほしい。

商工センター地区で大きなイベントが開かれて、そこから出てくる情報が、我々の仕事の上で必ず生きてくる。ただ、皆さんが言っているように、MICE 施設の具体的な画がない現時点で、方向付け、何か意見を述べるのは難しい。現実には、MICE 施設が建設されると、大きな刺激になるし、新しいビジネスチャンスを描くと思っている。

ただ、塚井先生が心配している交通手段の確保については、JRに増便してもらうくらいしかないし、バスもアルパークのバスターミナルでは十分でないので、もう少し何かしないといけないと思う。食事と宿泊については、おそらく、この近所で自由に土地を動かせるであろう三井不動産、オートキ、中央市場、NTTコムウェアの4か所が方向転換できると思う。この4か所は、商工センター地区にMICE施設が建設させることになった場合、土地を動かさざるを得ない状況になり、確実に変換をしてくれると思う。

私が市長にお願いしていることは、廿日市大橋をもう一本掛けること。また、廿日市の木材港から廿日市インターへ早期に直結できる道路を整備することを要望している。そうすると、岩国空港との連携により、非常にこの地の利用が生きてくると思う。

(戸田座長)

2点目の論点である、「MICE施設が建てられる一方で、団地内企業はどのように業態や立地環境の変化に対応していくべきか。」について、課題、対応も含めて、発言をお願いします。なお、この点については時間の関係から発言されたい方をお願いしたい。

(中村常任理事)

私どもは、商工センター七丁目に位置し、約20社の食品メーカーが立地・集積している。同じように、喜瀬さんの印刷工業の会社が立地している。MICE施設が、仮に商工センター地区に建設された時、団地内企業はどのように業態や立地環境の変化に対応していくべきかについて、MICE施設ができることによって規制緩和される地域と我々のように、既に、都市計画の変更の提案をして、都市計画変更をしていただいた地域とを明確に分けていただきたい。我々の食品工業あるいは喜瀬さんの印刷工業は、現在の環境については、現状を変えてほしくない。歴史を辿ると、広島市内で操業していた企業が、匂い、排水、トラックの深夜・早朝のエンジン音、騒音の苦情から逃れるために、商工センター地区に移ってきた。我々としては、今の現状で遠慮なく仕事ができる。この環境は守ってもらいたい。我々の地域から道路一本隔てて、雇用促進住宅が建っているが、その住宅の住民から、我々の食品工業から出る匂いについて、西区役所に苦情が入り、西区役所の職員から、我々の協同組合の事務局に連絡が入ることがある。我々が感知しない匂いについても苦情を言ってこられる方もいる。MICE施設は歓迎するが、周囲の整備も含めて、我々が安心して操業できる環境を維持してほしい。

(戸田座長)

2つの論点について、大きく4点に整理した。

1点目は、現状の認識と今後の方向性に関するもの。若干、マクロ的な視点もあるが、岡本常任理事から集客、情報発信機能のあるMICE施設の構想について、これまで「何をしていたのか。」という現状の認識についての発言があり、喜瀬常任理事からは、中央市場の建替えにも影響を与えるとの発言があった。また中村常任理事からは、是非MICE施設の候補地を、宇品・出島地区から商工センター地区へ広島市のスタンスを変えてほしいとの発言があり、中村副会長からは、広島市の中枢性を高める必要があるという発言と団地内企業もいずれ恩恵を受けるという全体的な方向性についての発言があった。

2点目は、MICE施設と地区の連携に関するもの。実際にMICE施設が建設されたとして、どのように連携するかについて、伊藤会長と藤本さんから全体としては、新しいビジネスチャンスが創出されて、良い機会になるとの発言があった。ただ、具体的なMICE施設の画が見えていないため、MICE施設の活用・連携については、今後の継続課題とする。

3点目は、他都市との差別化に関するもの。サミットの多くの方から、MICE施設を仮に商工センター地区に建設するにしても、他都市に造られているMICE施設と同じようなものではなく、商工センター地区の目玉となり、他都市のMICE施設と異なったカラーがあり、他都市との競争力に勝ち得るような広島ならではの



の特色のある施設にしないといけないとの発言があった。

4点目は、MICE 施設建設に当たっての条件整理に関するもの。塚井先生や伊藤会長から、もろもろの条件整理について、慎重な規模の検討、コンセプトの設計、広域的な交通アクセス、食と宿泊など色々な課題があるとの発言があった。これらの課題に対応できれば、商工センター地区は、宮島、瀬戸内海を含む広域的な「遊（ゆう）」という空間との結合もできるまたとない立地場所となる。このことを「食と遊」という言葉で整理させていただく。大半の意見としては、具体的な検討は、これからの検討会の中で協議をして、対応していくことで可能になる、またそうすべきだとの意見であった。

また最後に、中村常任理事から、実際 MICE 施設が建設されたとして、地区の規制緩和、ゾーンの見直しが今後あると思うが、地域によっては、現行の立地操業を守ることへの配慮も必要であるとの意見もあった。

それでは、議題 3「その他」に移る。本日の議題 1、2 で意見交換したが、MICE 施設が将来、商工センター地区に建設されるとしても、10 年、20 年先の話になるかもしれないため、今後、将来の地区のまちづくりについて、商工センター地区内企業の次世代を担う方などを中心に御意見をいただいてはどうかという提案がある。このことについて、サミットとしては、どう考えるか。

(伊藤会長)

否定するものではない。賛成しても良い。

(中村副会長)

否定はしないが、我々も将来を見据えて考えているところだと思う。若い人の意見を聞くのは良いと思う。良い意見が出てほしい。

(中村常任理事)

お二方と同意見である。

(喜瀬常任理事)

同意見である。現に今も商工センター地区内には、若い人による会議がある。常に連携を取り、適当な時に、意見を情報共有した方が良い。

(樋口常任理事)

若い人の活力のある前向きな思考や意見を活用すべきである。我々の協同組合では、将来を見据えて定期的に一般社員を集めてサンプラザで 50 人規模の「妄想会」をやっている。若い人たちのボトムアップ、意識改革をさせないといけない。若い人の中には、我々が考えつかない面白い意見を考える人たちもたくさんいる。

(戸田座長)

メンバーはどうするか。

(伊藤会長)

地区を横断的に網羅している西経会という組織がある。西経会は、商工センター地区の中央市場以外の団地の次世代を担う経営者や後継者の方々に組織されている。また、女性経営者の会として Moretop の会がある。Moretop の会には、中央市場の方も副会長を務められている。この二つの組織を活用して各組織から二人なり三人なり選んでもらえばと思う。

(戸田座長)

それでは、サミットで人選いただいたメンバーで意見交換をしていただくことをお願いします。  
このことについて、市は、どのように考えるか。

(経済観光局長)

まずは、皆さんからいただいた御意見に答えたいと思う。これまで「何をしていたのか。」というお叱りがあったかと思うが、国際会議の数が、福岡市は年間 363 件に対して、広島市は 59 件という数値が、まさに現状である。これを何とかしないといけないというのが我々の思いである。実はこの MICE 構想は、昭和の時代からあった。平成 15 年、16 年に、財政非常事態宣言を受けて、この事業の一旦停止を決めたところで、それがそのままここまで来て、このような現状になっている。これを何とかしないといけない。その時に、今日の議論を聞きながら思ったことだが、一つは、都市構想的に、今、紙屋町・八丁堀・広島駅を中心とした地区が、広島市のいわゆる都心という地区に位置付けられ、その活性化を考えているが、それと同時に、やはりもう一つの都心があってもいいと思う。その中で、商工センター地区においては、MICE 施設の提案をいただいたことと、大きな事業である中央市場の建替えの二つを検討していくことになる。これを機に、西部地区の活性化を図る大きなチャンスだと思った。

それともう一つは、樋口常任理事から大企業の話があったが、製造業を中心としたものづくり産業が、広島産業構造を大きく支えている。これは重要な点であり、それと同時に人との交流という話が出たが、観光という言葉で表すのがよいか定かでないが、やはりサービス業を中心とした人との交流の中心として、中央市場の建替えも機として、ここに人が集まる仕掛けが大切だと思った。

今日の話の中で、市として、MICE 施設を宇品・出島地区から商工センター地区にまず決めるのが先だという意見があったが、私としても、前回の提案に心を大きく動かされているというのが率直な気持ちである。

まちづくりについては、本市のまちづくりの方向性というのが、近々では、安佐北区の市民病院の移転に伴う安佐北区のまちづくりの提言書を地元の住民で構成された協議会から提出されて、本市のまちづくりを進める上でのモデルケースになっている。ただ、地域に任せるだけでなく、市も関わっていくということが前提になるので、一緒になって意見交換しながら進めていきたい。

(戸田座長)

全体を通じて発言されたい方はいるか。

(伊藤会長)

質問として、資料の福岡市の国際会議の 363 件の主催者は、産学官それぞれ何件か内訳がわかるか。

(MICE 戦略担当課長)

具体的な数字は持ち合わせていないが、九州大学で開催されたり、主催されたものが 200 件以上と大半を占めている。九州大学は、福岡市内に位置しており、九州大学の中に、会議に来られた方が無料で使用できる施設や設備がある。ただし、国際会議といっても、小規模な会議が多い。国際会議の基準は、資料の注釈に記載してあるとおり、1 日以上、参加者が 50 人以上、参加国が日本を含めて 3 か国以上で国際会議にカウントされる。例えば、福岡市の場合は、アジアから非常に近いということで、中国、韓国からの参加があると、3 か国以上の要件を満たし国際会議にカウントされる状況にあるため非常に件数が多い。

仙台市は、国際会議の順位が 2 位で 221 件になっているが、平成 27 年度は例外の年だった。国連防災世界会議により、いわゆる震災関係の会議を引っ張ってきていた。通常は、8 位の札幌市の件数である 100 件前後である。ただ、東北大学と隣接しており、国際会議の件数に反映している。

(樋口常任理事)

21世紀は、サービス業を育成する必要があると思う。我々も努力するので、サービス業育成の観点において、創業主体としての行政に何とか考えていただきたい。MICEの話も、働き方改革だけではなくて、生産性効率が肝であるから、それらを含めた種や仕掛けを是非お願いしたい。

(塚井准教授)

先ほど、まちづくりという話が出たが、商流と物流は相容れないかもしれない。同じことで、都市計画とまちづくりも相容れないかもしれない。

この地区の活性化を図ることと MICE は両睨みだが、地区のための施設であるとともに、大きな規模のコンベンションや地区の方の主催もあると思うが、それだけでは十分ではないので、我々、学会関係もイベントとして活用するかもしれない。長い期間で見ると活性化につながるかもしれない。地元の方の思いとの齟齬は出てくることもあると思うが、できるだけ出ないように考えたい。ポリシーとしては、非常に重要なことで、先ほどから、色々な方が懸念されているため、市には重々認識しておいてほしい。

西広島駅の場所の重要性も意識しておいてほしい。二つの世界遺産の間に位置し、今後、外国人を誘致する際も、重要な場所になる。西広島駅付近の調整は、市しかできない。バッティングして難しいところはあると思うが、是非、宿泊施設や食についても意識しておいてほしい。JR も広電も頑張らなくてはならない。西広島駅の場所をきちんと玄関口として高度に開発ができれば、西側は、地区外の連携も図れることになる。

(経済観光局長)

都市計画とまちづくりは相容れない部分があるということは、私たちが肝に銘じておく必要があると思った。ただ、そこをどううまく調整して、都市計画、まちづくりを進めていくかというのが松井市長の考えで、そういった意味で、今回、サミットから、自分たちのまちづくりだけでなく、広島市政全般のことを考えて、広島市の中枢性をどう高めていくかということを考える中で御提案いただいたことは、非常にありがたく思う。また、それを商工センター地区のまちづくりにどう生かしていくかということは、非常に大切なことであり、この検討会がその場になると思う。これからもそこをしっかりと意見交換させていただきながら、今後進めさせていただきたいと思う。

(戸田座長)

今後も、継続的に意見交換を行う場が大切である。

次回検討会までに、サミットから推薦された次世代を担う方を中心に、まちの将来像について議論していただき、その意見の報告を含めて、第8回の検討会を開催することとする。

今後は、商工センター地区を軸に、広島全体をどう変えていくのかを議論していきたいと思う。